

岡山多文化共生政策研究会 第3回 議事概要

日 時 平成 21 年 12 月 14 日 (月) 15:00~17:10
場 所 岡山国際交流センター 7F 多目的ホール
出席者 岡山大学教員 5 名 岡山市および総社市職員 (財)岡山県国際交流協会職員
岡山県国際課職員 4 名
在住外国人の方 2 名 在住外国人支援ボランティアの方 3 名

○岡山大学 あいさつ

本日は、第3回の研究会ということで、県と大学から在住外国人に対するアンケート調査の進捗状況の報告があり、また、在住外国人の方やその支援をしているボランティアの方から直接お話を聞くことができることとなっている。

今後、こうした意見も踏まえて最終的なとりまとめになる。研究会を進めて行く上で、節目になるのでよろしく願います。

○岡山大学の河原座長の議事進行により、会員の異動の紹介を行った後、議事に入った。

○アンケート調査の進捗状況について (資料 1)

(岡山県)

- ・アンケート対象者の抽出については、条件を変更して再依頼を行った。送付先リストの作成、調査票の翻訳、印刷を行い、9月3日に郵便で発送した。
- ・調査票発送後の問い合わせも数件あったが、特に問題となることはなかった。
- ・10月下旬まで到着分も含めて、データの入力を業者に委託した。
- ・現在、集計と分析を岡山大学にお願いしている。
- ・1月にオールドカマー等の方の聞き取り調査を予定している。

(岡山大学)

- ・抽出者数と回答者数はどれくらいか。

(岡山県)

- ・2,064名に送付し、511名から回答があった。

(岡山大学)・・・アンケート集計中間報告

- ・本格的な集計はまだなので、概要の説明となる。
- ・一つの回答は、円グラフで示し、複数回答は棒グラフにしている。
- ・クロス表分析が基本になる。

(基礎データ)

- ・男性と女性では、女性の回答が多くなるのが普通だ。
- ・国籍は、中国が多い。また、在留資格は、中国の研修、留学が多い。
- ・日本に住んだ期間と岡山に住んだ期間は同じくらいで違いはない。(岡山以外は住んでいない)

- ・居住地は、岡山市、倉敷市で60%を超えている。数の少ない市町村は、まとめることもある。
- ・同居している主な人は、配偶者、子ども、親となっている。
- ・平均年齢は、32歳位で、男女間の違いはあまりない。
- ・国籍別で、年齢を見ると中国の方は、留学、研修なので、比較的若い。韓国、ブラジルの方は長く住んでいるので高めにでている。

（言葉）

- ・話す、読む、聞く、書くの順番に、自信を持ってできる人が少なくなっているが、予想どおり。
- ・日本語を勉強していない理由は、近くに日本語教室がない、どこで勉強できるか分からない、時間がないなどを挙げている。

（仕事）

- ・他のアンケートではない項目だ。経済不況と言うことで聞いてみることになった。
- ・一年前と比較した収入については、増えたが20%に対して、減ったが44%となっており、仕事量も同じような傾向だ。
- ・今の仕事で不満に思うことは、低賃金が突出している。
- ・国籍と収入の関連を分析したが、中国、韓国の方は収入が増加し、フィリピン、ベトナム、ブラジルの方の収入が減っている。
- ・地域で見ると瀬戸内市の方の収入が減少しており、女性が増加している。言語能力の高い人は、増えており、教育関係の仕事の人も増えている。

（子育て・教育）

- ・子どもがない人が多い。
- ・子育てで困っていることは、親同士の交流がないことや出産費用が高いことなどである。
- ・子どもの教育で困っていることは、教育費が高い、進学できるか不安などである。

（困りごと）

- ・普段の生活での困りごとは、一番は言葉の問題、続いて習慣・文化の違い、仕事、生活費の順になっている。
- ・収入が減っている方と国籍を関連づけると一定の国籍の人が集中的に困っている傾向にある。
- ・日本人とのトラブルは、五分の程度経験している。原因としては、回答にあまり偏りがなが、日本人の理解がないや理解しようとする気持ちがないなどが比較的多い。
- ・外国人共生に必要なことは、外国人に対する理解と雇用の増加が多い。

（地域社会）

- ・地域で参加している活動では、とくにないが多い。ついで、お祭りやイベントが続いている。
- ・地域活動に参加しやすくするにはでは、開催日の情報が知られていないことがわかった。あと、同じ国・言葉の人が参加するや友人と一緒に参加するが続いている。
- ・普段付き合っているのは、同国出身の人が多い。

（岡山県）

- ・反省点だが、調査票の項目の仕事のところ、1年前の収入と仕事量を比較したが、いつの時点から1年前というのが不明確だった。中国の方の収入が増えたと言う報告があったが、母国と日本の生活の比較ではないかとも思える。今後、聞き取り調査でカバーできれば工夫したい。

（岡山大学）

・中国の方が増えているのは、相対的な話で、増えた人の中で中国の方が多ということだ。全体的に見れば、変わらないか、減っている人が多い。滞在1年未満を除外することができるような設問にすればよかったということでは反省点ではある。

(岡山大学)

- ・困りごとのところで、言葉の問題を抱えている人も滞在年数で違うと感じた。
- ・近くに日本語を学ぶところがないというのは地域によって知ることができるのか。

(岡山大学)

- ・そうだ。先ほどの滞在年数別に集計することも可能だ。

○今後の進め方について(資料 2)

(岡山県)

・この研究会の報告書であるが、アンケート及び聞き取り調査結果の分析に基づき、岡山県が抱えている課題を研究テーマとして選定し、先進地調査なども実施した上で、テーマ毎に数グループに分かれて取りまとめを行いたいと考えているのでよろしくお願いいたします。

○在住外国人及びボランティアとの意見交換(ここから、在住外国人及びボランティアの方が参加)

(在住外国人の方①)

- ・南米出身、来日13年目
- ・周囲に日系人が多く日本に行きたいと思っていたが、日系人と結婚したことがきっかけとなった。
- ・日本に来るまで、日本中、東京のような大都会だと思っていた。舞妓さんとロボットがあちこちにいると思っていた。
- ・日本人は、働くことに忙しくて、家族や友だちに時間がとれず冷たいイメージがあった。
- ・日本に来て、日本は穏やかできれいな景色がたくさんあり、環境問題にも頑張っていると感じた。大きな町にも田んぼがある。
- ・日本人は冷たくない、暖かい。祭りや音楽好きな人が多い。母国と似ている。
- ・日本のことや文化のことを学びたい。お互いに相手の気持ちを理解することが大切だ。
- ・現在、県内の自治体で多言語相談員をやっている。10月から現在まで108件の相談があった。
- ・一番多かったのは、生活保護・支援について、次に仕事、住居などである。
- ・岡山の多文化共生については、外国人から見て結構やってくれていると感じているが、もっと情報がほしい。
- ・外国人が日本人とふれ合えるイベントを開催してほしい。また、日本語教室がとても大切だ。
- ・同国人は工場内で12時間交代勤務が多く、休日は、家族や友だちと過ごしたいと思っている。
- ・日本語教室は、日本語しか話せない教師が多く、理解できないので行かなくなってしまう。
- ・ひらがな、カタカナ、漢字を覚えるのはとても難しい。初級レベルから始められたり、通訳がいれば助かる。
- ・最後に、先ほど言ったイベントの開催により外国人を理解してもらい、言葉や習慣を超えて共に地域をつくっていきたい。

(在住外国人の方②)

・東アジア出身 大学院生 4年目

・日本は、国は大きくないが、技術力は世界のトップクラス。車、電気製品の人気がある。

・大学のときは、アニメーションやドラマが好きでよくみたので、日本のことがわかってきた。

・日本人はよく働くイメージがあった。来てからは、きれいな国だという印象になった。緑も多い。

・生活して感じたのは、日本人の優しさ。道が分からないときは、人に聞くと優しく教えてくれたり、私が外国人と分かるとゆっくりしゃべったりしてくれた。

・母国での大学の専門は日本語だったが、話すスピードについていくことやうまく表現できなかつたりした。

・大学院に入るために日本語の勉強に一番力を入れた。大学の留学生のための日本語授業、国際交流センターの日本語教室を利用した。

・大学の活動に積極的に参加したり、バイト先のメンバーと友だちになり日本語を勉強した。

・2007年には「うらじゃ祭り」に参加して楽しかった。

・今は、修士論文を頑張っている。

・岡山の多文化共生についていいと思うところは、「うらじゃ祭り」とか外国人の参加できるイベントがあるところである。また、ボランティアの日本語教室は、外国人の私達にとってとても役に立つ。

・変えて欲しいところもある。留学生は、勉強第一。経済問題もあり、バイトをやっている。勉強するためと経済のためにやっている。去年、私の先輩は県からの奨学金をもらっていたが、私のはなくなってしまった。奨学金をつくってもらいたい。

・アパートを探すとき外国人は入居できなかったり、保証人が必要だったりする。外国人が入居できるアパートをつくってほしい。

(ボランティアの方①)

・地域共生サポーターに登録している。岡山市東部在住。

・最初のボランティアは、地元図書館から依頼があり、子どもに関する絵本の講座を始め、グループをつくり、20年になった。「子どもと女性」の支援が基本のスタンス。

・近年、国際結婚による問題点がでてきており、地域共生サポーターのネットワーク化を図り、「外国人女性と子ども」の課題解決を図るため、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを推進する団体で、先日、内閣府の助成事業を実施した。

・日本語ボランティアを国際交流センターで20年以上やっている。土曜日の講座を担当している。また、地域共生サポーターとして日本語ボランティアグループをつくり、地域での日本語教室を地域公民館と協働して4月から始めている。現在、20人ほど生徒がいる。ベトナム、インドネシアやマレーシアの研修生が多い。瀬戸内市や備前市からも来ている。受講生は、日本語能力試験も受けている。

・苦労していることは、次の世代に繋げるのが難しいことだ。若い方につなぐ方法を教えていただければありがたい。

・岡山の多文化共生については、日本語教室が全国的にも早い時期からできており、年々受講生が多くなっているところが進んでいる。

・県や市町村において、地域共生サポーターを活かす方法をお願いしたい。また、研究会でも検

討していただきたい。

(ボランティアの方②)

- ・岡山在住10年 岡山に勤務したことから岡山へ。
- ・きっかけは、2006年から2年間 JICA のシニアボランティアで東南アジアの学校でプラスチックの成型加工の先生をしたのが最初。
- ・国際交流協会のボランティアのため、週一回、国際交流センターに来ている。
- ・地域共生サポーターに登録し、昨年、グループ6人で日本語教室のマップ&リストを作成した。
- ・まず、アンケートを40人くらいにしたが、日本に来てすぐと今現在の両方で困っていることは、日本語がわからないということだった。
- ・また、どこで日本のことを勉強するのかと聞くと日本語学校の先生や上司、同僚に聞くことが多い。さらに、家族から日本の情報を得るという回答があった。
- ・そこで、入国手続きの窓口で日本語教室のマップ&リストを渡してもらおうということで4月に5,000部作成し、市町村に配布した。
- ・12月にフォローアップをした。熱心なところもあればそうでないところもあった。
- ・岡山市北区役所は手渡ししてくれたが、ラックにおいているだけのところが多かった。
- ・現在、次のステップをどうしたらいいのか思案中である。テーマなど決まっていない。
- ・どこかに行けば何とかなる場所を明示する必要があると思う。国際交流センターがその役目を果たしている。
- ・マップ&リストをスーパーマーケットやハローワークに置いたらどうかという意見を市町村からいただいた。
- ・ドイツのゲーティンスティテュートや中国の孔子学院のように全世界にその国を戦略的に PR するような学校がある。
- ・研究会をどのような方向に持って行かれるのか分からないが、岡山でそのモデルを作ったらどうか。日本でも紫式部学院という動きがある。

(ボランティアの方③)

- ・自分の役目はメッセンジャーである。こうした会に、在住外国人の方が直接参加し、感じていることやお願いしたいことを話をすることが大切だと思っていた。
- ・私が所属する団体は、長年、国際理解と親善ということで日本語弁論大会を開催してきた。
- ・この間、外国人の新鮮な視点で日本を見ていたり、日本の良さを私達以上に感じていたり、もう少しこうしたらいいという発言を聞いてきた。
- ・障害のある方に関わってきたが、声を挙げられない人の声が届かない社会を感じている。
- ・ここ数年は、岡山市市民協働事業を活用し、女性の視点から外国人の困っていることを学び、また実践として働きかける活動をしている。平成19年に多言語リーフレットを作成したが、外国人の方は、なかなか情報窓口までたどり着けない人が多い。
- ・DV、人身売買の視点も入れている。
- ・また、12月上旬にパーティを開催したが、96名うち36名の外国人の出席をいただいた。
- ・一般の方が多文化共生に意識を持ち外国人と繋がろうという動きが出ているので、こうしたことを大切にしてほしい。
- ・民間のよさを生かす団体も設立した。外国人の IT 講座を来年1月から予定している。

- ・地域と外国人を結ぶことを目的としている。公民館サポーターに声をかけて手伝ってもらおう。
- ・外国人にとって、書き言葉は特に難しいので、IT 使用が発信力として有効であると考えた。
- ・今後とも、女性の視点、子育ての視点で、外国人と日本人の区別なく考えていきたい。
- ・日本語教室の先生に当事者になってもらいたい。
- ・多文化共生推進室のような横に並んだ行政組織を作ってほしい。
- ・ドロップアウトし、進学も就職もできない外国人の子どもたちのケアをしてほしい。
- ・教育関係者にも多文化共生、国際理解を勉強してほしい。
- ・日本語教師をボランティアでなく教員に準じる位置づけで失業者を活用してほしい。
- ・企業内での日本語教室が必要だ。就職に結びつく日本語の勉強する機会を作ってほしい。

○質疑応答・意見交換

(岡山大学)

- ・地域共生サポーターの制度を作られた経緯、目的、今後の活用方策をお伺いしたい。

(岡山県)

- ・言葉や習慣が違うということで発生する問題を解決するため、地域と在住外国人とのパイプ役となるボランティアの育成が必要であるため、平成18年度に制度を創設した。
- ・地域共生サポーターの数値目標は本年度で達成しており、目標を増やしたところだ。(120人→180人) 県が事務局を持っているので活動活性化の取組が必要だというご意見はもっともだ。9月にサポーターの意見交換会を開催したが、県の役割はサポーターの育成講座の開催、登録することとしている。活用面としては、県は中間的な存在であるため、接点の多い市町村を中心に活用促進を図ってほしい。また、積極的にグループ活動など取り組んでいただいております。頭が下がる思いだ。研究会としても今後、ボランティア、行政、団体などの役割を整理したい。その中で、ボランティアの自発的な活動を活性化させる仕組みづくりにもご意見をいただきたいと考えている。

(ボランティアの方③)

- ・できることを洗い出してうまく連携して行くことが大切だ。行政でできないことは、機動性や柔軟性があり、住民の近くにいるボランティアを活用すればいい。そのためには、県とも気軽に訪問できて情報交換ができる関係になりたい。

(在住外国人の方②)

- ・例えば日本語教室のチラシなどは、スーパーよりは外国人が必ず行くところ、つまり市役所や入国管理局、大学の国際担当課、留学生会館などに配った方が効率が高い。
- ・地域共生サポーターに、外国人ボランティアを入れたらどうか。私たちにもできることがあると思う。

(ボランティアの方②)

- ・アンケート調査をもとに日本語マップ&リストは作成したが、本当は、日頃生活している人の声を生で聞いた方がいい。我々のグループにも何名か外国人がいれば良いと感じた。そういう仕組みにして欲しい。

(総社市)

- ・多文化共生に力を入れている。4月から新しく国際交流推進係ができた。

・外国人との話を重要と感じており、地域を通訳と一緒に訪問しながらアンケート調査を実施して、話を聞いている。

・日本語講座については、重要性を感じており、総社に密着した日本語教室を増やしたいと考えている。また、広報にも取り組んでいきたい。先日、外国人の地域での医療の問題についての講演会を開催した。

・いろいろな分野の問題があるので市役所の中に委員会を立ち上げた。総社市民の国際理解もまだ十分できていないと感じており。今日お集まりの皆さんのような方と協力して、多文化共生を進めてまいりたい。

(国際交流協会)

・日本語教室のチラシの件だが、ブラジル人は、紙に書いたものを読む文化がないと聞いているが、どこにPRすればいいのか教えて欲しい。

・ポルトガル語の講座も、日本人の感覚で教科書をまじめに勉強するやり方では、身につくのに時間がかかったり、人が集まらなかったりする。実践に即した講座をしたいが、ブラジルではどういう風に勉強しているのか。

(在住外国人の方①)

・ブラジル人の多くは、出稼ぎできている。母国で教わったおじいちゃんやおばあちゃんの日本語は現在変わっていて、また勉強しなくてはいけなくなっている

・今は、就職について困っている人が多い。少し前までは、派遣会社が通訳などのサポートをしてくれたが、今、全部の手続きを自分でやらないといけない。それで、パニックになって日本語を覚えたいと思っている。

・市役所や入管に日本語教室のチラシを置けば結構取ると思う。今年の1～2月には、仕事がなくなり帰国した人も多いが、今いる人は、日本の生活に早く慣れたいと思っており、日本語教室には興味があると思う。

(岡山市)

・今年4月から政令市になり、各区役所の窓口でマップ&リストを配布することとした。

・外国人市民会議の意見を参考に、通訳や翻訳をしていただくボランティアを選任する「多文化共生推進コーディネーター」制度をつくった。コミュニケーションが課題となっているので、町内会や小・中学校でお願いしようと思っている。

・多文化共生社会推進モデル町内会を募集している。条件として、町内会に外国人が30人以上居住している地区を対象にし、回覧板などの案内を多言語化する。また、コーディネーターの派遣なども考えている。

(ボランティアの方①)

・地域共生サポーター登録者の4割が岡山市で、2割が倉敷市などで、県内の温度差が大きい。

・やる気のあるボランティアをどう吸い上げるのかが課題だ。

・この研究会ともタイアップして、ボランティア活用の仕組みづくりをお願いしたい。

○岡山県 閉会あいさつ

ゲストの皆様には参考になる意見をありがとうございました。現在、アンケート調査を実施しているが、在住外国人の抱えている問題を明確にし、そのアプローチをどうするのかを検討して

いるところである。

ゲストの方からも行政の役割について要望があったところであるが、県と市町村においても横の連携を取りながら役割分担を考え、民と学、官が一体となって多文化共生を進めていきたいのでよろしく願いしたい。

○閉会